

平成 22 年 度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 神奈川県社会福祉事業団

目 次

	頁
I 総 括	1
II 事 業 概 要	
1 経営統括管理室	2
2 事 務 局	5
3 老 人 ホ ー ム	10
4 愛 泉 ホ ー ム	18
5 保 育 園	19

I 総 括

社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団（以下「当法人」という。）は、神奈川県の第三セクターから離れた一般の社会福祉法人として、自主自立の経営をスタートしてから二年が経過しました。

自主経営の基本的スタンスは、従来からの高い公共性と信頼性を失うことなく当法人の経営理念にもある「人にやさしい豊かなところ、地域社会への貢献、活力ある経営」により、福祉サービス提供の使命と、当法人の経営基盤の安定化を目指し、将来に向けて持続可能な法人経営を行うことです。

こうした中、平成22年度の事業につきましては、より効果・効率的な法人経営のために、川崎愛泉保育園を基盤とした再整備事業の基本構想に着手し、関係市町村へ設立趣旨書を提出しました。

また、前年度後期に湘南老人ホームの増床工事が完了し、総合経営計画（以下「経営計画」という。）の着実な進行管理をはかり、有益なる福祉資産を確実に継承しました。当初計画のとおり特別養護老人ホームの定員増による地域貢献を推進することや、再整備の対象でもある保育事業における待機児童受け入れのために、福祉分野における人材確保と職員資質の向上についても積極的に取り組みました。

さらに、経営基盤の安定化を推進することを基軸とした経営計画の下に、新規事業の研究・開拓・着手など、資金収支のバランスを特に注視し、着実に健全な法人経営に取り組むとともに、次の事項を主要項目として、その推進に努めて参りました。

- 1 「経営理念」の周知とそれに基づく法人経営の確立
- 2 「総合経営計画」の着実な推進
- 3 自主自立した法人としての経営基盤の強化
- 4 福祉人材の確保及び職員資質の向上
- 5 新規事業の研究・開拓・着手

II 事業概要

1 経営統括管理室

当法人は、平成21年4月1日、神奈川県第三セクターから離れた一般の社会福祉法人として自立しました。

当室は、経営理念にある経営基盤の安定化を基軸とする“活力ある経営”を目指すために、「総合経営計画」の検証から良質なマネジメントサイクルを実行し、不変的かつ長期的な展望を、総合的見地の基に各種福祉サービス事業の提供を確実に行うよう経営管理を行いました。

利用者が希望するサービスの質を確保していくためにも、その経営主体が安定的であり、持続可能でなくてはなりません。このようなことから、政権交代による社会保障制度の改正点や平成24年度の医療・介護保険のいわゆるダブル改定に向けての各種調査・検証を行いました。

また、“安全対策会議”を主宰し、業務管理体制の検証や内部通報に関するコンプライアンスの遵守を担いました。

さらに、法人向けのインターネット販売事業（ウイズカウネット事業）と感染症予防対策品などを含めた物品販売事業を、外部法人に向けて営業・販売を行いました。

主な当室の職務の実施状況は、次のとおりです。

(1) 安全対策会議

当室の職務である安全対策会議については、同会議設置要綱の趣旨に基づき各施設の事業に関して、事務局からの報告事項に基づき検証しました。

ア 第一回安全対策会議 平成22年6月17日（木）

- ・ 平成21年度の決算に関わる各事業等の検証について

イ 第二回安全対策会議 平成23年2月 8日（火）

- ・ 平成22年度の決算見込みに関わる各事業等の検証について

(2) 監事監査予備調査

本部事務局と一体となり、各施設の決算に関わる事務調査を行いました。

- ・ 当法人各施設の決算関係事務調査

平成22年5月6日（木）～5月12日（水）

(3) 感染症対策（パンデミック対策）

平成21年度の“新型インフルエンザ”の発生により、平成22年度も当法人重点課題の一環として取り組み、当法人内の啓蒙活動及び外部法人向け販売促進を行いました。

特に、パンデミックファン（ミスト噴霧機）による各施設の玄関等で、日常定時の機械噴霧を行うよう徹底し、実行しました。

（４）経営企画

ア 平成２２年度県内市町村保育園新規公募関係

- ・ 事業計画書等の作成に関わる関係諸官庁との調整事務
- ・ 事業計画書及び事業資金収支計算書等の作成に関する事務処理一式

イ 平成２３年度川崎愛泉保育園を基盤とする再整備計画

- ・ 事業計画書等の作成に関わる関係諸官庁との調整事務
- ・ 基本構想（設立趣意書）の作成に関する事務処理一式

（５）物品販売事業

インターネットを利用したウイズカウネットの外部法人向け販売事業（共同購入会「らく楽クラブ」設置）は、当法人の収益事業特別会計の一環として開始され、当法人の経営基盤の強化はもちろんの事、広く経費削減等の社会貢献（変動経費削減による経営安定化）の一翼を担うために行いました。

ア 物品販売代理店事業概要

- ・ ウイズカウネット販売代理店（兼）共同購入会「らく楽クラブ」

イ 取扱品目

- ・ 紙オムツ類、生活消耗品、文具、コピー用紙、飲料水、PC環境用品他

ウ 顧客数（平成２３年３月３１日現在）

- ・ 顧客加入数 262件

エ 顧客内訳（平成２３年３月３１日現在）

- ・ 社会福祉・医療法人等 157件（北九州市福祉事業団他）
- ・ 一般企業法人 105件（アイフォーコム(株)他）
- ・ 加入合計 262件

（６）東日本大震災への対応

平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災に際しましては、当法人でも災害対策本部を立ち上げました。当室との連携を密にし、広く情報収集を行い情報の共有をはかり、当法人施設の被災状況の確認や応急対策等を講じました。

ア 建物等への影響

一部川崎愛泉ホームと隣地との境界のブロック塀に亀裂が入り傾斜し、改修工事相当と判断し、本部事務局へ提言しました。その他の当法人内建物等の被害はありませんでした。

イ 停電への対応

地震発生当日は横須賀老人ホームで13時間の停電がありましたが、その他の施設は一時的な停電で復旧しました。横須賀老人ホームにおいても自家発電装置と蓄電池により対応し、大きな業務上の支障はありませんでした。

また、その後の計画停電等の影響により交通機関の運休等の為、職員の通勤に一部支障がありましたが、大きな混乱はありませんでした。

ウ 被災者の受入れ

県からの要請に基づき、福島県いわき市からの被災した障害者15名の緊急避難者を横須賀老人ホームにて受け入れました。

エ 現地支援

給食委託業者を通じて、宮城県の特別養護老人ホームから緊急物資の支援要請があり、紙オムツ等を発送しました。また、職員義援金を募り日本赤十字社、中央共同募金会、日本財団、神奈川県高齢者福祉施設協議会を通じて、被災者にお送りしました。

2 事務局

事務局は、法人及び施設の運営を円滑に推進するため、総合的な諸調整に努めるとともに、県の行政システム改革の中期方針に基づき、平成21年度、法人の自主・自立体制を確立し、経営基盤の安定・強化を図るため、法人内での「経営会議」を開催し、その下に、「総合経営計画」の着実な推進に努めました。

また、事務局を横須賀老人ホームへ移転し、二年目の年度として、効率的な事業運営に努めました。主な事業の実施状況は、次のとおりです。

(1) 理事会

- ア 第1回理事会 平成22年5月27日(木)
 - ・ 平成21年度事業報告及び決算(案)について
 - ・ 社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団就業規程等の一部改正(案)について
 - ・ 評議員の選任について
- イ 第2回理事会 平成22年11月26日(金)
 - ・ 平成22年度補正予算(案)について
 - ・ 評議員の選任について
- ウ 第3回理事会 平成23年1月11日(火)
 - ・ 川崎愛泉ホーム・川崎愛泉保育園再整備基本構想概要について(案)
- エ 第4回理事会 平成23年3月17日(木)
 - ・ 平成22年度第二次補正予算(案)について
 - ・ 平成23年度事業計画及び予算(案)について
 - ・ 組織等の変更に伴う関係規程の改正(案)について
 - ・ 評議員の選任について
 - ・ 施設長の任免について
 - ・ 常務理事の委嘱について
 - ・ 理事長の職務代理をする理事に係るあらかじめの指名について

(2) 評議員会

- ア 第1回評議員会 平成22年5月27日(木)
 - ・ 平成21年度事業報告及び決算(案)について
 - ・ 社会福祉法人神奈川県社会福祉事業団就業規程等の一部改正(案)について
 - ・ 理事の選任について
- イ 第2回評議員会 平成22年11月26日(金)
 - ・ 平成22年度補正予算(案)について
 - ・ 理事の選任について

- ウ 第3回評議員会 平成23年1月11日(火)
- ・ 川崎愛泉ホーム・川崎愛泉保育園再整備基本構想概要について(案)

- エ 第4回評議員会 平成23年3月17日(木)

- ・ 平成22年度第二次補正予算(案)について
- ・ 平成23年度事業計画及び予算(案)について
- ・ 組織等の変更に伴う関係規程の改正(案)について
- ・ 理事の選任について

(3) 経営会議

経営会議は、経営に関する基本方針や重要案件について審議し、方針決定を行うとともに、決定事項を着実に実行するため、組織内最高機関として設置しており、次のとおり開催しました。

- ・ 第1回 平成22年 4月15日(木) ・ 第2回 平成22年 5月17日(月)
- ・ 第3回 平成22年 6月17日(木) ・ 第4回 平成22年 7月15日(木)
- ・ 第5回 平成22年 9月16日(木) ・ 第6回 平成22年10月21日(木)
- ・ 第7回 平成22年11月18日(木) ・ 第8回 平成22年12月16日(木)
- ・ 第9回 平成23年 1月20日(木) ・ 第10回 平成22年 2月17日(木)
- ・ 第11回 平成23年 3月11日(木) ※第1回及び第8回は拡大会議

(4) 専門部会

経営会議の補完機関として特定課題の調査研究を行うため、次の部会を設置しています。平成22年度については、キャリアパス検討部会が新設。

ア キャリアパス検討部会

法人が期待する職員像と職員一人ひとりが目指す職員像について、キャリアパス制度導入により明確化、共有化するよう研究及び検討

イ 人事考課制度検証部会

人事考課制度導入後の検証、研究及び検討

ウ ホームページ制作運用検討部会

Webサイト(ホームページ)を制作し、適切な維持管理の研究・検討

(5) 研究会・委員会

特別な課題の調査研究を行うため、次の2つの研究会等を設置しました。

ア 次世代経営研究会

平成24年度からの次世代の経営計画に関する検討及び立案等

イ 設立50周年記念事業実行委員会

設立50周年を迎えるにあたり、記念事業を行うための検討及び立案等

(6) 研修センター事業

平成22年度は、引き続き神奈川県からの認知症介護に関する研修を受託するとともに、新たに政令指定都市である相模原市からの認知症介護に関する委託研修を受託しました。また、自主事業として、4回の福祉従事者向けの自主研修を企画実施しました。

その他、グループホーム、地域ケアプラザ及び他団体の実施する認知症介護実践者研修への講師の派遣を行いました。

【神奈川県委託分】

- ア 認知症介護実践者研修 () 内は実人数
- ・ 実施日数 講義・演習7日間＋自施設実習4週間＋他施設実習1日×2回
 - ・ 延参加人数 952名 (60＋59名)
- イ 認知症介護実践リーダー研修
- ・ 実施日数 講義・演習12日間＋自施設実習4週間＋他施設実習3日×1回
 - ・ 延参加人数 240名 (15名)
- ウ 認知症対応型サービス事業管理者研修
- ・ 実施日数 講義・演習2日間×3回 (なお、第3回は、東日本大震災の影響により、中止〔受講決定者は、34名〕)
 - ・ 延参加人数 138名 (34＋35名)
- エ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修
- ・ 実施日数 講義・演習3日間×2回
 - ・ 延参加人数 87名 (10＋19名)
- オ 認知症介護サービス事業開設者研修
- ・ 実施日数 講義・演習2日間＋現場体験1日×1回
 - ・ 延参加人数 42名 (14名)

【相模原市委託分】

- カ 認知症介護実践者研修 () 内は実人数
- ・ 実施日数 講義・演習7日間＋自施設実習4週間＋他施設実習1日×2回 (なお、第2回の最終日は、東日本大震災の影響により、中止〔出席予定者数は、27名〕)
 - ・ 延参加人数 443名 (32＋27名)
- キ 認知症介護実践リーダー研修
- ・ 実施日数 講義・演習12日間＋自施設実習4週間＋他施設実習3日×1回
 - ・ 延参加人数 120名 (8名)
- ク 認知症対応型サービス事業管理者研修
- ・ 実施日数 講義・演習2日間×1回
 - ・ 延参加人数 34名 (17名)
- ケ 小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修
- ・ 実施日数 講義・演習2日間×1回
 - ・ 延参加人数 14名 (7名)
- コ 認知症介護サービス事業開設者研修
- ・ 実施日数 講義・演習1日間＋現場体験1日×1回
 - ・ 延参加人数 12名 (6名)

【自主研修】

- サ スキルアップ 尊厳を支えるケアワーク研修
- ・ 実施日数 講義1日×2回

- ・ 延参加人数 111名 (52+59名)
- シ 介護職員の認知症介護基礎講座
- ・ 実施日数 講義1日×2回
 - ・ 延参加人数 318名 (158+160名)

(7) 介護サービス情報の公表制度に関する調査事務

介護サービス情報の公表制度については、神奈川県から指定を受け、実施していますが、平成23年度から制度の見直しが行われることが公表されました。当法人としては、新たな委託事業の受託を進めています。

平成22年度の調査については、次のとおり実施しました。

【調査実績】

単位：件数

月別	介護老人保健施設	通所リハビリテーション	福祉用具貸与	訪問看護	訪問入浴介護	訪問リハビリテーション	介護療養型医療施設	認知症対応型共同生活介護	小規模多機能型居宅介護	計
7月	5	9	12	11	4	6	1	1		49
8月	4	13	13	26	2	4	5	2		69
9月	12	17	20	23	13	8	2	5	1	101
10月	22	28	16	13	4	5	5	6	1	100
11月	18	23	15	17	3	9	3	10		98
12月	10	16	16	19	4	7	1	5		78
1月	10	18	13	16	8	5	6	1		77
2月	14	21	24	18	4	6	4	2	2	95
3月	9	13	8	18	4	5	4	4		65
合計	104	158	137	161	46	55	31	36	4	732

(8) 人材育成

ア 資格の取得

職員の職務に関わる、社会福祉士、介護福祉士及び介護支援専門員（ケアマネジャー）の資格取得に努めました。（22年度資格取得者 社会福祉士4名、介護福祉士12名、介護支援専門員（ケアマネジャー）4名）

イ 職員研修等

平成22年度職員研修計画に基づき、次のとおり職員研修を実施しました。

(ア) 一般研修

対象者：職能級3級以下の職員

内容：わくわくパワフル研修（自分の動機付けとなる価値を発見し、これからの自分たちのありたい姿を互いに知り、変化に向かう元気力、前進力を身につけるファーストステップとする。）

(イ) リーダーシップ研修

対象者：主任級以上

内容：福祉職場の業務改善担当者のためのファシリテーション研修

(ウ) 管理者研修

対象者：管理職及び所属長の推薦を受けた職員

内容：管理監督職に求められる福祉施設経営の視点

～経営管理・人材育成の基本と福祉サービスの質の向上に向けて～

(エ) 実践演習研修

対象者：勤続5年以上の者から課長補佐までの者

内容：自らが、自部署の現状分析を行い、課題を見出し、実践研究する。身近な課題を実践（臨床）しながら理論的に展開するプロセスを学ぶ。演習形式（ゼミ）の講座の意見交換を通して、他事業所の現状認識ができる。最終回で研修発表会を実施。

(9) 福利厚生等

ア 全職員を対象に定期健康診断と特別健康診断（人間ドック等）を実施しました。

イ インターネットのホームページに職員用ホームページを設定し、業務連絡、コミュニティー、文書保管庫及び施設だより等を掲載し、職員相互の交流を図りました。

(10) 苦情解決

平成22年度各事業の苦情・要望等の受付件数は、次のとおりでした。

ア 苦情等件数

23.3.31現在

事業別	老人ホーム	隣保館	保育園	その他	合計
苦情等件数	23	0	5	0	28

イ 苦情等対応結果

事業別	老人ホーム	隣保館	保育園	その他	合計
解決改善等	23	0	4	0	27
保留次年度引継等	0	0	1	0	1

3 老人ホーム

横須賀老人ホーム・横須賀養護老人ホーム 箱根老人ホーム 湘南老人ホーム

老人ホームは、総合経営計画に基づき、増床等の強化・安定化を図りました。

老人ホーム事業推進のために、各職制における担当者会議の開催により、更なる個別ケアの推進に努めました。

平成22年度は、各老人ホームの定員改定からの事業経営としての初年度でした。

地域貢献のためにも、各関係機関との連携により利用者の開拓に努めました。

(1) 特別養護老人ホームの入所者の状況

特別養護老人ホームの入所者の状況は、3老人ホームを集約したデータとして、平均要介護度4.15、重度認知症利用者割合（日常生活自立度Ⅲ～M）78.9%、医療的ケアの必要な利用者割合35.1%と高いレベルにあり、個別ケアが幅広く求められています。

ア 入所者の市町村別入所状況

23.3.31現在

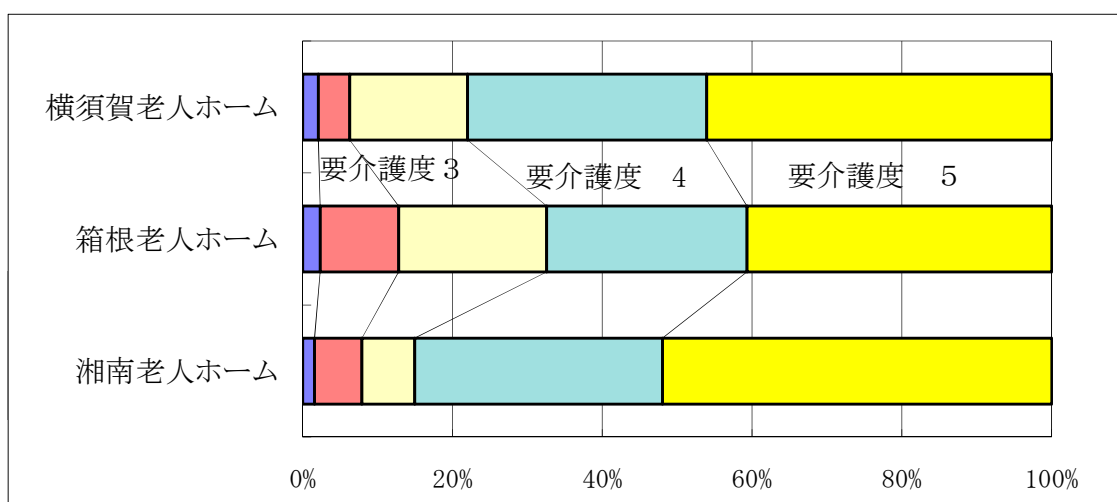
施設別	市町村別	区分	横浜市	川崎市	横須賀市	平塚市	小田原市	秦野市	箱根町	その他	計	
			人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
横須賀老人ホーム	養護	男	4	4	1	4			1	4	18	
		女	7	5	9	1		1		8	31	
		計	11	9	10	5	0	1	1	12	49	
	特養	男	3		40						4	47
		女	8	1	120						15	144
		計	11	1	160	0	0	0	0	0	19	191
	計	男	7	4	41	4	0	0	1	8	65	
		女	15	6	129	1	0	1	0	23	175	
	計			22	10	170	5	0	1	1	31	240
箱根老人ホーム	特養	男					3		6	5	14	
		女	3	1	0	0	18	1	34	15	72	
	計	3	1	0	0	21	1	40	20	86		
湘南老人ホーム	特養	男	0	0	0	7		15	0	13	35	
		女	1	0	1	19	2	54	0	15	92	
	計	1	0	1	26	2	69	0	28	127		

イ 入所者の要介護度状況

23. 3. 31現在

施設別 要介護度 状況区分	横須賀老人ホーム		箱根老人ホーム		湘南老人ホーム	
	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)
要介護 1	4	2.1	2	2.3	2	1.6
要介護 2	8	4.2	9	10.5	8	6.3
要介護 3	30	15.7	17	19.8	9	7.1
要介護 4	61	31.9	23	26.7	42	33.1
要介護 5	88	46.1	35	40.7	66	52.0
合計	191	100	86	100	127	100

平均要介護度	4.16	3.93	4.28
--------	------	------	------



ウ 入所者の医療的介護状況

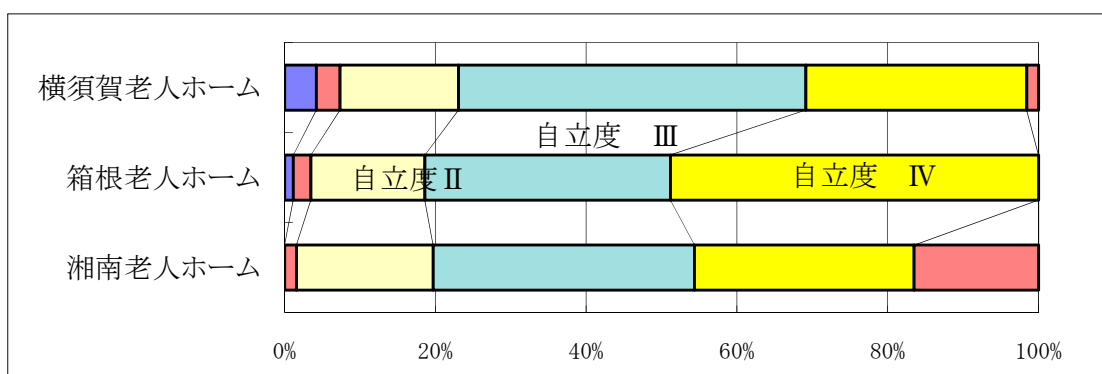
23. 3. 31現在

施設別 医療区分	横須賀老人ホーム 191 名		箱根老人ホーム 86 名		湘南老人ホーム 127 名	
	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)
経管栄養	14	7.3	11	12.8	21	16.5
尿管カテーテル	10	5.2	1	1.2	3	2.4
糖尿病・イン スリン注射	1	0.5	1	1.2	0	0.0
ストマ (人口肛門)	0	0.0	1	1.2	1	0.8
吸 引	24	12.6	10	11.6	10	7.9
看取り介護	9	4.7	10	11.6	0	0.0
疮瘡処置他	13	6.8	0	0.0	2	1.6
合計	71	37.2	34	39.5	37	29.1

エ 入所者の重度認知割合

23. 3. 31現在

施設別 医療区分	横須賀老人ホーム		箱根老人ホーム		湘南老人ホーム	
	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)	人数	比率 (%)
正 常	8	4.2%	1	1.2%	0	0.0%
日常生活自立度Ⅰ	6	3.1%	2	2.3%	2	1.6%
日常生活自立度Ⅱ	30	15.7%	13	15.1%	23	18.1%
日常生活自立度Ⅲ	88	46.1%	28	32.6%	44	34.6%
日常生活自立度Ⅳ	56	29.3%	42	48.8%	37	29.1%
日常生活自立度M	3	1.6%	0	0.0%	21	16.5%
合 計	191	100%	86	100%	127	100%



オ 在宅サービス利用状況表

23. 3. 31現在

事業別	施設別	横 須 賀	箱 根	湘 南
		老人ホーム	老人ホーム	老人ホーム
訪 問 介 護	実施日数	256 日	— 日	— 日
	延利用人数	587 人	— 人	— 人
	1 日 平 均	2.3 人	— 人	— 人
介 護 予 防 訪 問 介 護	実施日数	200 日	— 日	— 日
	延利用人数	240 人	— 人	— 人
	1 日 平 均	1.2 人	— 人	— 人
通 所 介 護	実施日数	297 日	238 日	306 日
	延利用人数	4,807 人	2,209 人	5,286 人
	1 日 平 均	16.2 人	9.3 人	17.3 人
介 護 予 防 通 所 介 護	実施日数	297 日	238 日	306 日
	延利用人数	807 人	335 人	894 人
	1 日 平 均	2.7 人	1.4 人	2.9 人
短 期 入 所	延利用人数	9,006 人	943 人	5,502 人
	1 日 平 均	24.7 人	2.6 人	15.1 人
介 護 予 防 短 期 入 所	延利用人数	42 人	— 人	25 人
	1 日 平 均	0.1 人	— 人	0.1 人
送 迎 サービス	延利用人数	2,334 人	301 人	1,510 人

(2) 養護老人ホーム（横須賀養護老人ホーム）の取り組み

平成22年度は、養護老人ホームを外部サービス利用型特定施設へ転換してから4年目となり、適切かつ安定したサービスが提供できるよう取り組みました。

特定施設入所（介護度1以上）の利用者については、在宅ケアプランを特定施設のケアマネジャーが作成し、細かなサービス提供を行い、ヘルパー派遣においては、個別介護計画、訪問介護記録の整備と質の向上に努めました。

【入所者の状況】

23.3.31現在

障害級別	区 分	入 所 人 数	比 率 (%)
1	級	30 人	61.2 %
2	級	17 人	34.7 %
3	級	0 人	0.0 %
4	級	2 人	4.1 %
5	級	0 人	0.0 %
合	計	49 人	100.0 %

(3) 診療所の状況

慢性便秘、高血圧症、脳動脈硬化症、眼疾患、糖尿病等については、診療所外来での診療として、インシュリン注射、服薬等により管理しました。

また、個別機能訓練体制加算は、延べ13,359人に実施しました。

23.3.31現在

施 設 別	区 分	養 護	特 別 養 護
横須賀 老 人 ホ ーム	年 間 診療受診数 (延数)	2,956 人	8,312 人
	日 平 均 (人)	8.1 人	22.8 人

(4) 利用者の健康管理

定期検査や日常の観察を強化するとともに、インフルエンザの予防接種を行うなど健康管理に努めました。

しかしながら、11月から1月にかけて各老人ホームで利用者・職員及び職員の家族にインフルエンザやノロウイルスの発症が確認され、発症者への医療的ケアと適正な介護等に努めるとともに、「ホームに持ち込まない」を合言葉に感染の拡大防止に努めました。

その他に定期検診、予防注射等を適正に実施しました。

(5) 利用者の身体及び健康状態に合わせた食事の提供

介護職、看護職、管理栄養士、調理担当者と食事内容について、意見交換を定期的実施するとともに、利用者及び家族からの聞き取り調査を踏まえて、栄養ケアマネジメントを実施し、利用者個々に対応したより良い食事の提供に努めました。

また、咀嚼・嚥下に問題を抱える入所者に対し、ソフト食の提供に取り組みました。

(6) 防災対策

毎月1回、利用者を対象とした避難誘導訓練を実施するとともに、夜間を想定した避難訓練を行いました。

また、適切な応急対応措置が図られるように、消防署職員及び応急手当普及員資格職員の指導により、普通救命講習を再受講するとともに、自動体外式除細動器(AED)の使用方法について研修しました。

(7) 団体、ボランティア等の交流

地元自治会、地域の小中学校、幼稚園等との連携を図るとともに、ボランティア連絡協議会、ボランティアグループ等による喫茶コーナー、クラブ活動援助、作業援助、外出介助ボランティアの協力を得る等地域住民等との交流の拡大を図りました。

また、学校のカリキュラムの関係から、中学生、高校生の訪問が相次ぎあり、交流が活発に行なわれました。

(8) 実習受入等

ア 「神奈川県認知症介護実践者研修事業」の実習施設として研修生を受け入れました。

・ 横須賀老人ホーム 年3回(1～2日間、県高齢者福祉施設協議会主催含む)・延参加人数 21人

・ 湘南老人ホーム 年4回(1～3日間)・延参加人数 25人

イ 介護福祉専門学校等の社会福祉士・介護福祉士実習、県看護協会及び東部総合職業技術校、小田原高等職業技術校等のホームヘルパー養成実習等の受け入れを行いました。

23.3.31現在

施設別 実習・研修機関	横須賀老人ホーム		箱根老人ホーム		湘南老人ホーム	
	実施日数	延人数	実施日数	延人数	実施日数	延人数
福祉系大学・介護福祉専門学校の実習	89	178	30	50	219	351
看護学校、県看護協会等	10	50	0	0	20	40
ホームヘルパー養成機関等	15	30	0	0	66	66
学校、地域団体等の実習	26	117	1	2	15	91
その他	2	20			6	50
合計	142	395	31	52	326	598

ウ 普及啓発研修として、認知症介護実践者養成研修事業及び家庭介護教室で実施するとともに、ボランティア、中高校生等の体験研修、見学を積極的に受け入れました。

(9) 「身体拘束廃止推進モデル事業」実施状況

神奈川県身体拘束廃止推進モデル施設として、次の事業に取り組みました。

- 身体拘束廃止の推進に向けて、地域の中核的施設としての役割を担うため、施設見学の受け入れや相談等の実施。
- 地域の実情を踏まえ、研修や事例検討などの企画・運営を図り、他施設との横の連携を構築する役割を担う。

ア 拘束のない介護に関する相談等の実施（施設や関係機関からの研修、見学の受け入れや外部研修会等への職員派遣）

- ・ 横須賀老人ホーム 派遣回数11回、派遣職員23人、参加人数134人
- ・ 湘南老人ホーム 派遣回数3回、派遣職員1人、参加人数72人
- ・ 箱根老人ホーム 見学講義受入数1回、講師職員2人、参加人数6人

イ 身体拘束廃止を推進し、施設ケアの質を高める研修会

- ・ 湘南老人ホーム（「秦野のびのびいきいきケアの会」事務局活動）
開催回数6回、参加施設12施設、参加人数115人
相談回数2回、相談件数3件（介護保険施設）

(10) 職員研修等

介護保険に関する各種研修を実施するとともに、新任者研修の他、毎月職員研修を実施し、更に研修代替介護職員派遣事業制度を活用して、外部研修に積極的に参加し、職員の資質の向上に努めました。

また、「人権委員会」、「ケアプラン検討委員会」、「事故防止対策委員会」、「個別ユニットケア推進プロジェクト」、「食事委員会」等を定期的で開催して職員に必要な知識、技術の向上に努めるとともに、感染症予防対策について、周知徹底を図りました。

更に、おむつ等の適正な使用方法について、3老人ホームで取り組み、利用者への快適性向上と経費節減に努めました。

(11) 広報事業

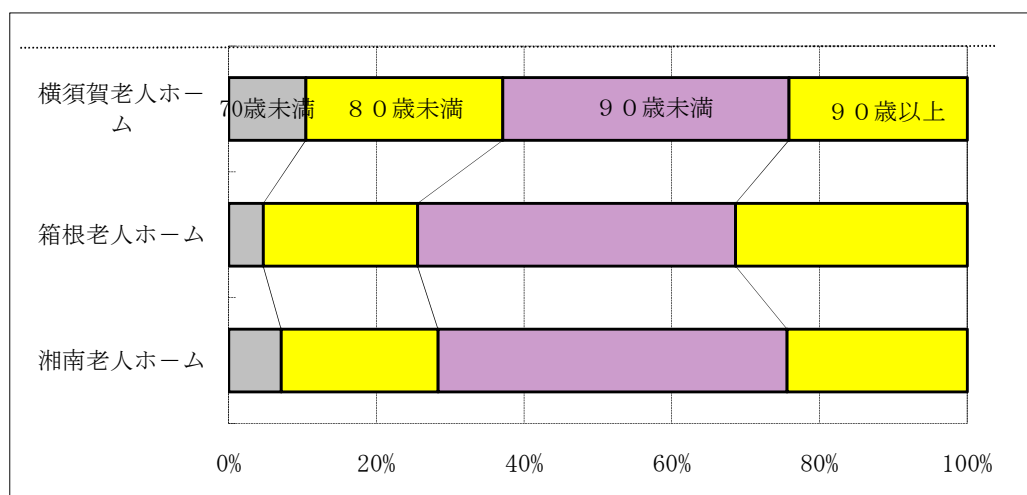
広報活動として、横須賀老人ホーム「野比の四季」、箱根老人ホーム「箱根だより」、湘南老人ホーム「みどりの風」を発行しました。

【参考】

(1) 入所者の年齢構成

23.3.31現在

施設別	区分	70歳未満	80歳未満	90歳未満	90歳以上	計	最高年齢	最低年齢	平均年齢	
		人	人	人	人		人	歳	歳	歳
横須賀老人ホーム	養護	男	3	11	3	1	18	90	64	76.2
		女	3	11	13	4	31	100	63	81.0
		計	6	22	16	5	49	—	—	79.2
	特養	男	7	16	17	7	47	99	58	79.1
		女	12	26	60	46	144	100	61	84.3
		計	19	42	77	53	191	—	—	83.1
	計	男	10	27	20	8	65	男平均		78.3
		女	15	37	73	50	175	女平均		83.7
	計		25	64	93	58	240	全平均		82.2
箱根老人ホーム	特養	男	2	7	4	1	14	96	63	77.9
		女	2	11	33	26	72	105	63	86.1
		計	4	18	37	27	86	—	—	85.5
湘南老人ホーム	特養	男	8	11	11	6	36	96	59	80.4
		女	1	16	49	25	91	98	65	86.1
		計	9	27	60	31	127	—	—	83.3



(2) 在宅福祉サービス利用状況

ア 横須賀老人ホーム

23.3.31現在

居宅介護支援事業			配食サービス		
給付管理票 提出件数	要介護認定 調査件数	住宅改修 理由作成	実施日数	利用人数	1日平均
832件	29件	0件	198日	7,783人	39.3人

地域包括支援センター						
サービス計画・ 給付管理表提 出件数	実態把握	介護予防教室			相談件数	実相談人数
		実施回数	利用人員	1回平均		
1,334件	1件	1回	13人	13人	3,285件	882人

イ 箱根老人ホーム

居宅介護支援事業		
給付管理票 提出件数	要介護認定 調査件数	住宅改修 理由作成他
243件	5件	0件

ウ 湘南老人ホーム

居宅介護支援事業			シルバーハウジング事業		
給付管理票 提出件数	要介護認定 調査件数	住宅改修 理由作成他	実施日数	相談件数	日常生活援 助等
729件	29件	1件	243日	1,555件	375件

地域包括支援センター									
介護予防支援		実態把握(特 定高齢者実態 把握を含む)	特定高 齢者プ ラン件 数	介護予防教室			相談 件数	1日平 均相 談件 数	実相 談人 数
給付管理票 提出件数	要支援 認定調 査件数			実施 回数	利用 人数	1回 平均			
1,718件	111件	986件	44件	44回	531人	12.1人	7,553件	31.1件	3,522人

4 愛 泉 ホ ー ム

川崎愛泉ホーム

県・市の協議が継続中であることを踏まえ、引き続き地域住民の自主的活動等に対する支援及び場所提供施設として管理・運営に努めました。

事業の実施状況

(1) 貸室状況

件 数	1,260 件
利用人数	9,064 人

※デイサービスの通常活動を含む。

(2) 生活相談事業

件 数	396 件
-----	-------

(3) デイサービス活動

区 分	活動日数等	利用人数	平均
通常活動	93 日	405 人	4.4 人
特別活動	4 回	23 人	5.8 人

5 保 育 園

川崎愛泉保育園

屏風ヶ浦保育園

多様なニーズに対応したサービスの提供に努めるとともに、持続可能な収支均衡の取れた保育園経営の確立に努めました。

(1) 保育目標

各園がそれぞれの生活環境、家族の状況などの地域特性を踏まえ、次の目標をもって、保育活動を実施しました。

ア 川崎愛泉保育園

一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、安心して園生活を過ごせるように、職員との信頼関係を基盤に、友だちと関わり合う楽しさを感じ、意欲や自主性が育つように、いろいろな体験を積み重ねられるように努めました。

イ 屏風ヶ浦保育園

「楽しい集団生活」、「健康な身体づくり」、「楽しい給食」を保育目標に、子どもが健やかに育つ力を見守り、成長と発達を助長しながら環境を整え、子どもを含めた保護者への適切な援助をすることを基本とした保育に努めました。

(2) 入所児童の状況（年間・日平均実績）

（単位：人）

施設別 年齢別		定員		
		川崎愛泉保育園	屏風ヶ浦保育園	計
		60	90	150
0	歳 児	3.0	9.0	12.0
1	歳 児	11.9	13.9	25.8
2	歳 児	16.0	18.0	34.0
3	歳 児	13.0 (1.0)	18.0 (1.0)	31.0 (2.0)
4	歳 児	13.0	18.0 (1.0)	31.0 (1.0)
5	歳 児	15.0 (2.0)	18.7 (3.0)	33.7 (5.0)
	計	71.9 (3.0)	95.6 (5.0)	167.5 (8.0)

（ ）内は、障害児内数

(3) 特別保育の実施状況

ア 長時間保育・延長保育の実施状況（年間・日平均実績）

（単位：人）

区 分		施 設 別	
		川崎愛泉保育園	屏風ヶ浦保育園
長 時 間 保 育	A 7:15～7:30	3.0	—
	7:30～8:30	25.3	32.7
	B 16:30～18:00	61.3	—
	16:30～18:30	—	40.3
	C(土) 7:00～8:30	—	—
	(土)12:30～17:00	—	4.5
延長保育	(月～金) 7:15～7:30	—	5.2
	(月～金) 18:00～19:00	13.5	—
	(月～金) 18:30～20:00	—	4.8

イ 一時保育（非定型的保育・緊急保育・リフレッシュ保育）事業の実施状況

（屏風ヶ浦保育園）

区 分	非定型的保育	緊急保育	リフレッシュ保育	月平均利用数
	64.8 人	1.3 人	1.7 人	67.8 人

(4) 健康管理（以下各園共通）

園児が健やかに生活できるように日々の健康管理と衛生面に留意しました。

- ・ 定期健康診断（川崎愛泉保育園 年4回・屏風ヶ浦保育園 年2回）
- ・ 検 査 等 身体測定、視聴覚検査、ぎょう虫検査、歯科検診、尿検査、感染性疾患の早期発見、食中毒の予防等

(5) 防災対策と安全管理

園舎内外の設備点検をはじめとして、不審者の侵入等あらゆる災害から園児を守るため安全管理に努めるとともに、園児自らも事態に応じて安全な行動がとれるよう指導しました。

- ・ 避難消火通報訓練（毎月1回）、総合訓練（年1回）、児童の引渡し訓練
- ・ 交通安全指導、交通安全教室の開催
- ・ 園舎の安全・防災点検、環境整備
- ・ 事故検証会議の実施

(6) 家庭との連携

保護者との連携を図り、相互の理解と協力のもとで、よりよい保育効果が得られるよう努めました。

- ・ 連絡帳による相互連絡、登降園時等の日常連絡
- ・ 園だより、給食だより、クラスだより等の発行
- ・ 保護者との懇談会、個人面接、保育参観、保育参加、保護者連絡会

- ・ 給食試食会の実施
- (7) 職員研修
職員研修及び各関係機関研修会等に参加し、職員の資質向上に努めました。
- (8) 行事・地域活動
各保育園の地域状況に応じて次のとおり行事・地域活動を実施しました。
- ア 川崎愛泉保育園
毎月2回の園庭開放により近隣の親子と遊びなどを通じて、交流を図りました。
また、子どもまつり、移動動物園や子ども鑑賞会（人形劇）、クリスマス会など行事にも近隣親子を招待し、地域親子と園児との交流を図りました。
- イ 屏風ヶ浦保育園
育児懇談会、園庭開放、移動動物園、親子フェスティバル、もちつき、人形劇に地域親子の参加を呼び掛け、乳幼児の親子と園児と一緒に過ごすことができるよう地域との交流を図りました。
- (9) 実習生・ボランティア等の受け入れ
- ・ 夏休みに中学生の体験学習と小学生との交流体験
 - ・ 保育士養成学校からの実習生の受け入れ
 - ・ ボランティアの受け入れ
 - ・ 小学校教諭の保育体験受け入れ